

# はやしま本だいすきの会会報

令和8年3月号No.2

## 1月11日(日)午後2時から かみしばいのじかん

この日は、朝から雪が舞う寒い日。ゆるびの舎入口には、成人式の着物姿が麗しい新成人もいて、喜ばしい日ではあるのですが、何といっても寒いので、ぞうさん公園にも人気がなく、城坂さんが、児童館に声かけしてくれたり、図書館の中にいらした親子連れにお声がけしたりで、たくさんの小学生も来てくれて準備していた工作が足りず、急遽準備したりで大慌てでしたが、みなさん喜んでくださって良かったです。

### わらべうた『春の七草』

導入に城坂さんが、ななくさを題材にしたわらべうたを歌って、「みんな七草のおかゆさんを食べた人もいるかな？」と問いかけると参加者の大人の方から「食べましたよ」の声も聞けて、和やかな雰囲気の中はじまりました。

紙芝居『さむがりやのゆきだるま』やべみつりの作絵 童心社  
ゆきだるまの楽しいお話だったので小学生にも大うけで紙芝居の舞台を上手に使っての城坂さんの読み方も良かったのでしょうか。とても楽しんでくれました。

### 絵本『おしょうがつバス』藤本ともひこ作絵 すずき出版

おなじみの十二支たちも登場して、みんななバスに乗って出かけていきます。「いきます」が「いきバス」とさまたまなところでダジャレのように〇〇バスが登場して楽しい響きの中、みんなでお話の世界を楽しみました。

### わらべうた『もちつき』

ふたりでリズムをとりながらもちをついていくおなじみのわらべうたです。ただ同じリズムで手拍子をするだけなのですが、米倉にはちょっと大変でしたが、なんとか無事におもちがつけて良かったです。

### 布絵本『びんぼうがみとふくのかみ』鈴木敏子作絵 童心社

働き者なのにいつまでも貧乏な農家の夫婦。なんと100年以上も屋根裏に貧乏神が住み着いていたのです。二人が働き者なので、ついに福の神がやって来ると貧乏神が泣きわめくと、可哀想に思った夫婦はなんとこのまま住み着いて良いというのです。さてさてどうなることやら…

### 絵本『おしょうがつのかみさま』おほらゆめ作絵 大日本図書

おしょうがつ、みんなが集まっている所へトラがお餅を乗せてやってきました。みんなでおもちを食べようといっていると、なんとこのおもちがおしょうがつのかみさまだというではありませんか。みんなで餅つきをしたり、風揚げをしたり、花札をしたり、おせちをたべたり、楽しい時間を過ごした後は「まんぞくまんぞく」とかみさまはお餅から抜け出して「またらいねん」と帰っていきました。ほんわか楽しいお話でした。

工作「おかざり」城坂さんが準備してくれた画用紙と紙を皆でのりづけして、お飾りをつくりました。小さい子を想定しての工作だったのですが、小学生もしっかり楽しんで作ってくれました。馬のおりがみを作っていたら、そちらもやりたいと残って挑戦してくれていました。図書館に飾っているので見てみてください。

担当:A.S Y.Y A.W 参加者:子ども14人 大人6人



## 2月8日(日)午後2時から かみしばいのじかん

珍しくうっすら雪化粧の日曜日となりました。

午後1時家を出掛けようと外を見ると雪。

みるみる内に庭が真っ白になり、

下り坂を緊張しながら図書館に向かいました。

児童館に声を掛け、

外で雪だるまづくりをしていた子どもたちも来てくれて、

定刻に始めました。

最初はエプロンシアター「北風と太陽」

この時期ならではの話しなので久しぶりに挑戦してみました。

力ずくや強制ではなく、優しさや思いやりが大切というイソップのお話です。

次は紙芝居「かわうそときつね」

ずるいきつねを最後はかわうそがきつねをギャファンと言わせる昔話です。

大人は結末を想像しながら楽しんでみてください、

子ども達は真剣な眼差しで見っていました。

次は絵本モノクロの絵が美しい「はなをくんくん」

最後の黄色い花が明るい春が近いことを知らせるステキな絵本です。

最後の紙芝居は「うみにしずんだおに」

鬼の親子が浜の村人を救うという高知県の民話です。

郁美さんがしっとり読んでくれました。

工作は折紙で鬼を折り、紙コップに貼りつけ、

パンツや、手・金棒をつけて完成です。

2コ作って、鬼の戦いをするという男の子もいたりして、

喜んで持って帰ってくれました。

和子さんがお手伝いに来てくださり、助かりました。

参加人数: 幼児3名、小学生6名、大人6名 合計15名

担当 I.S A.S

